

第2回「函館TOM向上推進事業」映像制作検討懇話会 会議録

【開催日時】 平成29年7月25日（火） 10:00～12:00

【開催場所】 函館市役所8階第3会議室

【出席者】 委員）奥平委員（座長），山口委員，富永委員，大場委員，
岩田委員，中尾委員，佐々木委員，安立委員

事務局）函館市企画部

種田部長，竹崎政策推進課長，山口主査，菊地主事
函館市教育委員会学校教育課教育指導課
阿部指導主事

【次第】 1 開 会

2 議 事

(1) 盛り込むべき事項「歴史・人物・産業」について

(2) その他

3 閉 会

議事 発言要旨

【奥平座長】

小学生向け意識啓発映像に盛り込むべき事項「歴史・人物・産業」について意見交換をしたい。

【佐々木委員】

前回、社会科の副読本に則った形と子供たちの琴線にふれるような副読本のプラスアルファになる形の2つの方向性について話したが、どちらの方向性で考えていくのか。

【奥平座長】

まずは、副読本に則った形、オーソドックスな観点から意見をいただき、次の段階でプラスアルファのものについての意見をいただければと思う。

【佐々木委員】

オーソドックスな観点からの意見とすれば、ポイントをいかに絞り込むかということ。

函館の歴史を顧みた場合に、子供たちが既に分かっている事であっても、これは凄いターニングポイントであるというようなことは、再度子供たちと一緒に考えられるという場合があってもいいと思う。

それ以外に北海道や函館が現在に至るまでの所で、前向きになれるような歴史・人物・出来事を盛り込めればよい。

視覚的もしくは音響的に訴えるのがDVDであり、知っていたけれどもこれは凄い、とか、知らなかったけれども自分の住んでいる街はこうなんだというポイントを抑えられるかという視点で議論できればと思う。

【岩田委員】

小学校の社会科は繋がりではなく点で抑え、中学校は線で抑えて繋げていくイメージ。

小学校の社会科で実施するのであれば点でいいのではないかと思う。

時代に繋がりはなくても、重要なものを選んでいけばよい。

子供たちに身近なのは観光であり、建物と結びつくこと、記念碑と結びつくことというように、目で見えて関連付けていけるようなものを選んでいくと子供たちも入りやすい。

【大場委員】

平成32年度から全面実施される新学習指導要領にも目を向けると、現在の副読本から少し離れて、函館市のおこりから現在に至るまでの主な出来事を追い、学ぶことも求められてくるようである。そこにも視点を置いて取り上げる事柄を考えられればと思う。

【中尾委員】

歴史や人物全てに関係するが、観光にも繋がり映像にもなりやすいものとして「大火」の歴史は避けられない。

例えば明治11・12年の大火の後、明治13・14年で現在の西部地区の全ての坂が出来、そこに明治40年の大火の後現在の異国情緒ある建物が新築または再築され、更に昭和9年の有名な大火後現在のグリーンベルト等色々なものが復興の中で出来た。

明治元年から昭和9年まで、100戸以上焼けた大火が26回もあり、こんな都市は他にない。

そうした困難を全て乗り越えて今に至っているということは、子供たちに伝えるべき一番大事な事だと思う。

【奥平座長】

私も大火だと思っていた。

大火と人物の絡みは非常に多く、例えば今の函館のインフラの元を作ったような方にもスポットを当てられ、水道の発達や歴史や防災都市としての函館の歴史とも絡んでくる。

【安立委員】

子供向けということもあり、点でピックアップし、深めていくのがいいと感じた。

伝えたいのは、歴史を知ってもらうこと以上に、今の函館の生活が過去から脈々と受け継がれてきて、どういう風に素晴らしいか、今の自分たちにも生きているかという観点が盛り込めればいいと思う。

大きな災害が何度起きても常に立ち上がってきた函館の「大火と復興」は外せないと思う。

また外国との交流で、函館にいち早く入ってきた文化を取り入れながら柔軟に発展し、今でもその跡を大事に受け継ぎ、活用しながら今の函館があるということで、「外国との交流」も一つポイントだと思う。

もう一つのポイントとして「縄文」を挙げたい。豊かな自然があって過ごしやすいので縄文文化が発展したということもあり、海や山の幸があって発展した里であった。そして何より、北海道で唯一の国宝があるということは改めて知ってもらおうと誇りになる。

【奥平座長】

縄文の宣伝をするのには一番いいのは空港である。縄文遺跡の上に飛行機が飛んでくるので、アナウンスなども映像に入れていく事は可能ではないか。

【山口委員】

私も「大火」について同感。

まちの成り立ちのような子供の生活感覚でもなるほどと思えることについて、例えば、どうしてこういう道になっているんだろうか、どうしてこの交差点はこんな形になっているんだろうか、どうしてこの消火栓はユニークな形になっているんだろうみたいなことから入っていくことが大事であり、後から徐々に記憶が繋がるようなきっかけを作ってあげることが必要。

内容的に盛り込むべきことをどこかで絞らなければならないが、それを歴史の人物で絞った方がいいのか、まちの成り立ちや生活の中で小学生でも感じられる事から入りそこに関連するような人物を散りばめた方がいいのか思案のしどころ。

前回、小学校の中学年だけでなく高学年も含めて考えていけたらいいとの話があったが、基本は副読本の内容に沿ったものとし、「大火」や「まちづくり」の項目を付け加えながら作っていくのいいのでは。

授業の中では、副読本を読んで覚えなさいではなく、副読本をモデルにしながら自分たちで祖母の古着を持ってくるなど手を使いながら色々理解するという事を行っているようなので、その一つの手助けになるような情報を映像でも提供できればと思う。

【富永委員】

知識だけを伝えるDVDならば、子供たちは飽きてしまい記憶に定着しないのではないか。

方法としては、クイズから入るといえるのはどうか。

子供たちの興味・関心を引くようなクイズから始まり、少し考えさせた後に説明が入る。その後、そこで終わらずに更に考えさせるような内容があるといいと思う。

例えば、26回も大火が起こった原因やまた大火が起こる可能性、私たちのまちを守るにはどうしたらいいんだろうというようなことを考えさせる。

子供たちに自分たちのまちを守るとか、まちをつくっていくというようなテーマのことを考えさせると、まちに対してより愛着が湧くと思う。

インターネットの時代、知識は溢れており知識があるということはそれほど大切なことではなく、その知識を活かして何を考えるかが大切だと思う。

「私たちのまち」はどこの市でもやっているが、他の地域との比較があると、より一層函館のことが理解でき自信が持てると思う。

【奥平座長】

歴史の事象を一つ一つ映像にするのは無理。何かトピック的なものを一つ取り上げて派生させていくという方法がオーソドックスと感じた。

中尾委員から提案があった「大火」などを一つの明確なメインテーマにし、そこから派生させていくこともできると感じる。

【中尾委員】

日本海側の他都市との繋がりも大事にしていく要素であり、「昆布の歴史」も一つあっていいと思う。

【奥平座長】

メインを「大火」，「昆布の歴史」をサブストーリーとすることもできると思うし、北前船の関係もあるので、他都市との連携関係が縄文時代からあったという歴史を入れていくのも面白いと思う。

また大きな消火栓は地元で造られているが、このような事例は国内でもなかなかない。

家の前にある消火栓も西部地区にある消火栓も同じで比較することができるので、例えば小学校の前にある消火栓を見てみようから始まれば非常にわかりやすい事例になると思う。

トピックとして「大火」や「昆布」が出てきたが、その他にはどうか。

【安立委員】

函館山は観光的にもメインコンテンツで、子供たちも遠足に行ったり家族で夜景を見に行ったりする機会があると思うが、函館山の要塞は戦争と結びつく歴史があり、ロシアからの防衛といった地理的・歴史的な話から、ただの観光の山ではないということを知ってもらいたいので、「函館山の多彩な歴史」を挙げたい。

【奥平座長】

要塞については安全性の問題は多少あるが、歴史の事実としては必要な部分だと思う。

【中尾委員】

視覚に訴えるのであれば「五稜郭」も外せないと思う。

【奥平座長】

「大火」との関わりとすれば、函館山には沢山の擁壁、いわゆる石垣が残っているが、古いものは大火で焼けたまま残っているため、大火の後を見られるという点では、擁壁も一つのポイントだと思う。

子供たちは知らない事をやるとはまるで、知らないことをどれだけ伝えられるかというのも一つのテーマになってくる。

続いて「人物」についての意見をいただきたい。

【中尾委員】

石川啄木、高田屋嘉兵衛は盛り込みたい人物である。

【奥平座長】

豪商であったというだけでなく、大火についても寄附をしていた相馬哲平は大事である。

また五稜郭という観点ならば、武田斐三郎が出てくると思う。

【安立委員】

成人祭で以前函館の代表的な人物に投票するという模擬選挙が実施されたが、その際候補者として高田屋嘉兵衛、石川啄木、土方歳三などが函館の主要な人物として提示されており、結果は土方歳三が一番だった。

業績と結びついた偉人というのは、子供たちの頭の中にはないのかなという印象をその時受けた。

【中尾委員】

野外劇に出てくる人物も盛り込みたい。

【安立委員】

野外劇に出てくるのは、石川啄木、高田屋嘉兵衛、ペリー提督など。

ペリー提督という有名人が来たということで、函館の価値が上がると考えることもできる。

【奥平座長】

堀川町、中島町、時任町、松川町など人物名が町の名前になっている所がある。

町の名前になっている人物は、子供たちにとっても身近であり、取り上げててもよいと思う。

子供たちの関心を引きつけるクイズとして函館が日本で1番となっている事柄を並べていくのも面白いと思う。

次に「産業」について、明治の中頃から昭和初期にかけて函館の隆盛期を支えた産業というものは小学校でどのように教えているのか。

【大場委員】

函館の隆盛期を支えた産業をとりたてて取り上げ学習する単元はない。

函館・道南のおこりから今に至るまでの変遷・歴史を、主な幾つかのポイントで追い、学ぶことで、函館の隆盛期を支えた産業についても触れることができる。

今後、3年生の学習で取り上げられることが考えられる。

その時に、例えば北洋漁業の盛んであった時期と函館市の様子を知るという場面も設定することは出来るかもしれない。函館の移り変わり・歴史を軸に、これに関わる人物や産業を組み入れていくとよいのではないかと思う。

【奥平座長】

函館は工業都市だったということを知らない子供たちが沢山いる。

函館はどういう街かと聞くと、子供たちは観光の街とは言えるが、工業都市だったとは言えないと思う。

函館の隆盛を支えたのは北洋漁業と造船であり、連絡船が結びついている。造船業が函館のベースを支えていたという部分をどこかで言う必要があると感じる。

また青函連絡船が廃止になったのを契機に観光客が増加し函館の観光地化が急激に進んだ。そのようなこともデータとして示せば面白いと思う。

【大場委員】

産業について盛り込むべき事項を考える際、歴史の流れの中で捉えていく視点と、今の函館を支えている産業を取り上げる視点、この2つの視点からの映像があると学習には使いやすい。

【奥平座長】

前回の内容をふまえ、DVDのターゲットは小学生だけと考えるのか事務局の考えを確認させていただきたい。

【事務局】

来年度制作するDVDは学校で使っていただくことが前提。

学校で使っていただくためには、副読本に沿った形で制作するのがよいが、やはり子供たちが興味を持ち先々まで印象に残るためには、副読本から少し外れたとしても興味を持ってもらう制作をする必要がある。

まずは、オーソドックスな形でのテーマの洗い出しをしていただき、そこにトピック的に何か新しいものを入れていくことはありうらと思う。

まずは3・4年生は社会科で、そして5・6年生は総合的な学習の時間で使えるものを作っていくということもできらと思う。

【富永委員】

私はeラーニングを研究しており、動画的な映像教材を作って学習させるが、大学生でも10分を超えると限界。

導入的な一つのコンテンツは8分位にし、そこで興味を持たせ、じっくり考えさせる時に副読本を読んで考えてみようというやり方もいいのではと思う。

また、これから作るDVDを市のHPに掲載すれば、全国の方が見られるようになり、そうすると函館以外の人にも興味を持ち、いい街だなと思ってもらえる効果もある。

そう考えると、10分以内でトピックがしっかりしている方がよい。

【中尾委員】

DVDができれば、子供だけではなく市民の生涯教育にも対応できるものになる。

【山口委員】

学校の先生方が使うためには、全体としてのストーリーは保ちつつも部分利用も可能なものを作っていく必要がある。

幾つかの自治体では、部分的なものはネット配信で、全体の教材としてはDVDで作っている事例もあり、学習として価値のあるものをどうやって入れていくかを考えていかなければならない。

【岩田委員】

私も短編がいいと思う。

短編を沢山作った方が、学校現場で沢山使え、授業の導入だけではなく途中であったり、または最後で比較させるためにもう一度見たいという部分で使え効率がいい。

【大場委員】

本年度の社会科副読本作成委員の先生方に、3・4年生社会科学習に関わる映像について意見を聞いた。

映像については5分前後の長さのものがいいのではという意見、自分たちが必ずしも足を運んで実際に見学や調査ができないような場面を映像にさせていただければという意見、歴史的な流れも含めてその時の歴史のイメージを映像化しても

らうようなものあればいいのではという意見，歴史・産業に関わっている方々の工夫・苦勞している点などについての生の声をインタビューしていただくようなものあればいいのではという意見，がありそのような映像があれば授業で使いやすいとのことだった。

これから映像について議論していく際に，このような意見があったということも考えていただきながら議論を進めていただきたいと思います。

【佐々木委員】

これまでの意見にあったようなものを作ることは可能だと思ふ。

5分毎のチャプターを繋げると120分でワンストーリーになるものや歴史的な人物をドラマ仕立てで作る事も出来る。

ただし，莫大な予算と労力が必要である。

また，教育委員会のHPの中に独立したサイトを立ち上げ，そこにクリップ的なものを掲載する。先生方は学校からいつでもサイトにアクセスし，授業で使いたいものを掲載されているクリップの中から選び使うというようなことも可能だが，こちらにも莫大な予算と労力が必要。

【奥平座長】

今日は，コンテンツの絞り込みから始まり，結果的にどういったものを作っていくのかということまでお聞きできたと思ふ。

最後に確認として，副読本「わたしたちの函館」との関係は，「わたしたちの函館」を補完するような形，さらに「わたしたちの函館」を使いやすく出来るような内容も含めた映像を作っていくということによろしいだろうか。

次回以降は，短編なのかストーリーにプラスするという形がいいのかを議論していければいいのではないか。

【安立委員】

当初の事業の目的が「まちを大切に，人を大切に」という事で，函館を好きになってもらう，または函館を一回出ても戻ってきてもらうというような「シティプロモーション」，函館に愛着を持ってもらう事だったと思ふ。それよりは，授業でどう使うか，短い方が使いやすいといった話に今日はぐっと寄ってきたという印象を持った。

函館を売り込むシティプロモーションの視点もしっかり考えていかないと，広がりがなくなってしまうと感じる。

【事務局】

私たちが作るのは，まさしく函館のまちに愛着を持ち，ここで育った子供たちが一度外に出てもいずれ戻ってきてもらう，そうした主旨で映像を作ろうと思っており，シティプロモーションの視点は欠かすことができないと思っている。

【佐々木委員】

ターゲットは小学校中学年から高学年ということが再度確認できた。この検討懇話会の主旨が今の子供たちにどうやってI LOVE函館市になってもらえるのかということだとすると，我々大人たちが函館の魅力子供たちにどう伝えていくのかということの議論にもつながってくると思っている。

どのようなものでも作ることは出来るが，一番は子供たちが興味を持つものを作ることだと思ふ。興味を持った子供たちというのはその先に更に深く進むので，その導入，興味を持つきっかけとなるコンテンツになればと思ふ。

もう一つはあまり函館市のマイナスイメージから入らず函館市には現在これだけのいい所があるという所から入った方がいいと思ふ。

子供たちも褒めてあげると伸びる。

函館市の歴史・人物・産業的に良いところはどこなのかを押さえれば、短尺でも長尺でもかまわない。良いものを作ることができればと思う。

以上